

令和5年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓「自ら 学び 思い 律する」のもと、「志高く創造性豊かな実践力のある人間を育成する」を教育目標とする。そのため、

- (1) 新たな価値観や考え方を構築する創造力の育成 (Creativity)
- (2) 疑問をもち、それを追究する探究心の育成 (Inquiry)
- (3) 他者と協同できる生徒の育成 (Collaboration)

を通し、様々な背景を持った、自分とは考え方や価値観が異なる人とより良い関係を築くことができる生徒を育てる (Open-minded)
ことを教育方針とする。

2 学校の特色

本校は、国際コースをもつ普通科単独校として、確かな学びを通して、明日を切り拓く力を身につけることを目標に、次の点に重点を置き、学習指導、進路指導、生徒指導を行っている。

- ・どのように生きるかを共に考えるための教育の推進
- ・社会の仕組みを学ぶだけでなく、実際の社会参加のためのスキルや考え方も一緒に学ぶ「シチズンシップ教育」の推進
- ・国際的視野にたち、国際教育の推進
- ・各教科における深い学びの実現
- ・各教科の学びをつなげ、生かす「総合的な探究の時間」の充実

3 学校の現状と課題

本校生徒の多くは温和で良識を有し、国公立大学や難関私立大学への進学を希望している。授業や学校行事、部活動の取り組みには真面目であるが、教師主導の傾向がやや強いため、計画的に物事を考え自ら実行していくという主体性が乏しい生徒も見られる。

そこで、主体的な学習生活を確立させるための指導法を工夫することによって、積極性を身につけ、忍耐力や集中力を持続できる生徒の育成に努めること、自分の生き方、将来の職業、進学目的について十分考える機会を設けることによって、学ぶ意欲を高めることを学校課題としている。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の志望・能力・適性に応じて、各教科の特性とバランスを考慮し、段階を踏んだ系統的な指導ができるよう教育課程を編成する。 ○ 学習の到達度や興味・関心等に配慮し「主体的・対話的で深まる授業」を行うとともに、主体的な学習習慣を確立させる。 ○ 海外研修、海外の協力校の生徒との交流や国際関係行事を通して、海外の生活文化等を知ることによって、自分たちの生活文化への理解を深めさせる。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路志望実現を考慮した教育課程とするが、生徒の全人的な発達がなされるよう教科のバランスや特別活動等、他の領域との調和を図る。 ○ 1学年では基礎・基本を重視し、2・3学年では生徒の進路志望に対応した類型、コースと科目の選択を可能にする。 ○ 「総合的な探究の時間」を活用して、1・2学年で「探究活動」および「進路探訪」を行い、課題を見出し解決していく能力および進路に対する目的意識を高め、校訓に謳う「自ら 学び 思い 律する」態度・能力を育てる。3学年では進路に応じた教科学習の深化を図る。 ○ 全教員による学習指導研修や教科別研修等により、<u>教科指導の充実と学力向上</u>に努める。 ○ 生徒による授業評価アンケートを実施し、よりよい授業実践の参考とする。 ○ 授業第一主義を尊重し、授業時数の確保に努める。 ○ 学年・教科担当者が連絡を密にし、生徒の学力の把握に努める。 ○ 毎日の予習・授業・復習や、週末課題などに計画的に取り組ませることにより、<u>継続的な家庭学習の習慣</u>を身につけさせる。 ○ 学校行事等の年間計画の作成や各種のしおり等を活用して生徒各自の学習予定表・日課表を作成させ、自主的な学習習慣の養成を図る。 ○ 海外研修、イングリッシュ・キャンプ、国際セミナー、国際理解のための講演会等を実施し、<u>国際教育の充実</u>に努め、生徒に英語や外国に興味・関心をもたせる。 ○ ALT等を活用して、普段から英語による授業を行い、<u>英語コミュニケーション能力の育成と向上</u>に努めるとともに、英検やGTECなどの外部試験を積極的に活用する。 ○ 校内研修を計画的に行い指導力の向上を目指すとともに、学校外の機関との連携も図る。
		重点1①	
		重点1②	
		重点2①	
		重点2②	
	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的生活習慣の確立及び社会の規律を守る態度を育成する。 ○ 健康安全の意識を高め、心身の健康を自己管理できる生徒を育てる。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登校指導や学年における遅刻指導等を通して、富山南高校の生徒としてふさわしい服装・あいさつなどの指導を継続して行う。 ○ 生徒用個人ロッカーを利用するなど、<u>貴重品の自己管理を徹底する</u>。 *年度末にはアンケートを実施する。 ○ 引き続き、サイクル安全リーダーによる交通安全街頭指導やHR等を通して、<u>交通安全に関する意識の高揚</u>を図る。 ○ <u>引き続き感染症対策について指導し</u>、安心して学校生活を送ることができるようとする。 ○ 定期健康診断、各種検診の結果をもとに健康についてに指導する。 ○ <u>食生活や睡眠時間などの生活習慣を見直す</u>。 ○ 全職員が生徒理解に努め、教育相談の充実を図る。 ○ 校舎内外の環境美化への積極的な取り組みを促進する。
		重点3①	
		重点3②	
		重点4①	
		重点4②	

項目		目標・方針及び計画	
3	重点5	目標 進路支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が自己の可能性を発見し、多様な選択肢の中から自分なりの生き方を探し求め、力強く歩むことができるよう助言・指導する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ スタディサポート・学習支援調査（進路希望調査・意識調査）を実施し、生徒個々の実態を踏まえ個人面接に生かす。希望する進学先を明確にさせることにより、適切なコース・科目を選択させる。<u>家庭での学習習慣を定着させ、目標達成のための学力をつけさせる。</u> ○ 入学直後の新入生オリエンテーションにおいて、学習の仕方を指導し、高校生活の基礎を作らせる。また、キャリア教育の一環として、1学年で社会人（OBやPTA）による講話、2学年では大学・企業を訪問する「進路探訪」を実施し、<u>進路意識の早期の確立</u>に努める。 ○ 小論文指導、面接指導、大学入学共通テスト対策、個別試験対策など、きめ細かい指導を継続的に行うことで、<u>高い志を持ち進路目標の達成に主体的に取り組む生徒の育成</u>を目指す。 ○ 生徒向けの「進路のしおり」「学習のしおり」等を発行し、進学や職業に関する情報を整理させ、自己の進路実現に活用させる。 ○ 実力テスト・模擬試験等の成績資料が随時活用できる体制を整え、生徒の目標を段階的に設定するとともに、事後指導も確実に行う。 ○ 大学入試制度に関する正確な情報を収集し、検討・協議する。
4	重点6① 重点6② 重点7	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事、部活動、ボランティア活動等に自ら積極的に参加させ、人と交流することの大切さや、社会に貢献できる資質を養う。 ○ 読書活動を通して、豊かな教養を身につける。図書館を活用した自主的な学習を励行する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団生活の中で好ましい人間関係を構築するため、様々な問題に対して一人ひとりが自分なりの意見や意思を持ち、積極的な意見交換を通じて合意形成が図られるよう、討論を主とした<u>HR活動の充実</u>を図る。 ○ 体育大会、南苑祭において、多くの生徒が達成感・充実感を得ることができるよう、<u>生徒に主体的な企画・立案・運営</u>をさせる。 ○ 図書館活動を活発にし、教科や学年との連携を密にして、生徒の読書に対する意欲を高め、<u>読書習慣の定着</u>を図る。 ○ 蔵書や資料を充実させ、図書や行事等に関する情報を発信して、<u>図書館及び図書資料の活用</u>を促進する。
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育目標達成のために、各分掌・学年・教科・委員会等が連絡を密にとることができるように協力体制を構築して有機的で計画的な学校運営を図る。 ○ 開かれた学校づくりに努め、地域住民や保護者などとの交流・連携を積極的に推進する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各分掌における役割と目標を明確にして校務運営を円滑に進める。 ○ 教職員相互の信頼関係を深め、教職員間のコンセンサスを図る。 ○ 会議時間の短縮や校務の効率化等により、教員の負担軽減に努める。 ○ P T A、同窓会、地域住民、学校評議員等に、会議やホームページを利用して、学校の方針や取り組みを紹介し理解を深めてもらう。 ○ 学校行事やボランティア活動を通して、地域住民との交流の機会をもつ。 ○ 生徒の活動や作品の発表の場をできるだけ多く設定する。 ○ オープンハイスクールやホームページなどを通して、本校の教育活動を紹介し、魅力の発信に努める。

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動（教科指導全般の充実）		
重点課題	教科指導の充実		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びに向けた授業への改善が求められることから、指導内容や方法について各教科部会を中心に研修や協議を行っている。思考力問題への対応、表現力の向上について、授業研究をさらに活発化していく必要がある。 昨年度は、授業アンケートの「授業はわかりやすかったですか？」という問いに「少しそう思う」「大変そう思う」と答えた生徒は合わせて約70%であった。今年度も分かりやすい授業を大切にすることはもちろん、本校グランドデザインにある「疑問をもち、それを追究する探究心（Inquiry）」を育成し、各教科における深い学びを実現するために、教師全員で授業のあり方を考えていかなければならぬ。 全生徒にタブレットが配布されたこともあり、多くの教員がICTを活用した授業や学習活動を行っている。今後も、ICTの活用をさらに進め、生徒の深い学びに繋げていけるような授業の工夫・実践を行う必要がある。 多忙化の中、指導方法などについて意見・情報を交換したり協力し合ったりする時間を充分に持てているとは言えない状況であり、工夫・改善が必要である。 生徒の学習活動の形態が多岐にわたるようになってきており、生徒の授業や課題に対する反応や感想を把握しながら指導を進める必要がある。 		
達成目標	①教員の教科指導力や授業力の向上 校内研修や互見授業などを実施し、研修・研究に積極的に取り組む。 互見授業への参加 年3回以上	②生徒の授業に対する満足度 授業アンケートで「わかりやすかった」に4または5と評価されている割合 70%以上	
方 策	<p>①指導力・授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 互見授業については、年間4週程度（1学期2週、2学期2週）の実施期間を設けるが、1、2学期は必ずしも実施期間にこだわらずに見学できることとし、日常的に授業を互見しやすい雰囲気作りを進める。 授業実践に関する意見・情報交換については、教科会議を開いて行うことはもちろんだが、それだけでなく、日常的に意見・情報交換する機会をこれまで以上に大切にする。 互見授業などを通して、深い学びのためのツールとしてのICT活用について、意見や情報の交換を特に積極的に行う。 グランドデザインをふまえて、「互見授業記録」に意見・感想を記入する。その内容を一覧にし、他の教員にも見られるようにする。 他校の公開授業やオンラインでの研修会などを積極的に参加して、研修を深める機会を増やす。また、その成果を校内へフィードバックする。 <p>②生徒の授業に対する満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月および12月に授業アンケートを実施する。 7月のアンケートの結果を数値化し、授業の改善ための参考とする。 12月と7月のアンケート結果を比較し、改善がみられたかどうか、振り返りを行う。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン - 2 -								
重点項目	学習活動（国際教育・英語指導）							
重点課題	英語コミュニケーション能力の育成と国際コースの活動の充実							
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 授業を軸とし、さらに様々な活動（プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等）を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指している。 「国際コミュニケーション」を学校設定科目として設定し、自然な英語の聞きとり、英語でのプレゼンテーション、意見交換ができる英語力の育成に努めている。 特色ある国際コースを主とした活動である「国際理解のための講演会」、「食文化交流会」、及び「国際セミナー」がより有意義なものになるよう、事前・事後指導の充実に努めている。 コロナ禍においても、アメリカ サンディギート高校や台湾、北アイルランドの交流校とオンラインによる交流を継続している。 GTECは1年生が7月、2年生が12月のアセスメント版の受検を予定している。 令和4年度国際コース卒業生で英語検定2級以上を取得した生徒の割合は、50%の目標達成には4名足りなかった。 令和4年度国際コース2年生で英語検定2級以上を取得している生徒の割合は63%であった。 							
達成目標	<p>①コミュニケーション能力をレベルアップした生徒の割合 (GTEC 4技能、英検)</p> <table> <tr> <td>GTEC 690点以上 70% (1年)</td> <td>②「国際セミナー」、「国際理解のための講演会」への参加生徒の満足度（希望者も含む）の割合</td> </tr> <tr> <td>755点以上 70% (2年)</td> <td>アンケート調査による「たいへん満足」「ほぼ満足」の割合が合わせて90%以上</td> </tr> <tr> <td>英検 (国際コース) 3年終了時の英語検定2級以上取得者割合 65%以上</td> <td></td> </tr> </table>	GTEC 690点以上 70% (1年)	②「国際セミナー」、「国際理解のための講演会」への参加生徒の満足度（希望者も含む）の割合	755点以上 70% (2年)	アンケート調査による「たいへん満足」「ほぼ満足」の割合が合わせて90%以上	英検 (国際コース) 3年終了時の英語検定2級以上取得者割合 65%以上		
GTEC 690点以上 70% (1年)	②「国際セミナー」、「国際理解のための講演会」への参加生徒の満足度（希望者も含む）の割合							
755点以上 70% (2年)	アンケート調査による「たいへん満足」「ほぼ満足」の割合が合わせて90%以上							
英検 (国際コース) 3年終了時の英語検定2級以上取得者割合 65%以上								
方 策	<p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際コースに限らず、全クラスで英語4技能5領域の力の向上を目指す授業を行う。 英語に関する行事（イングリッシュ・キャンプ、サンディギート校とのオンライン集中交流）を工夫して行い、生徒の英語に関する興味・関心をより高める。 英語の4技能5領域の力を計るパフォーマンス評価を継続して行う。 英語検定の受検を推奨する。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「国際教育」、「英語活動」、「コミュニケーション能力の向上」等に関する講師を県内外問わず招聘する。 「国際セミナー」及び「国際理解のための講演会」が、より有意義なものになるよう事前指導を十分に行う。また事後に振り返り（感想）をさせることで、今後の学校生活や進路選択に役立たせる。 満足度に関するアンケートを実施し、より充実した行事になるよう工夫する。 							

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・明るくまじめな生徒が多いものの、遅刻を繰り返したり、きちんとした服装やマナーが定着していない生徒も見受けられる。 ・球技大会や体育大会などの行事では、今まで担任が生徒から貴重品を預かり、貴重品袋に入れ、職員室で管理していた。しかし、貴重品を預ける生徒は3分の1程度で、盗難防止としては不十分であった。今年度から全学年で生徒用のロッカーが導入され、貴重品をロッカーに入れて管理するように勧めている。 ・昨年度は交通事故が9件発生。すべて自転車乗車中の事故で、重大事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーに関する苦情も寄せられている。 	
達成目標	①貴重品の管理についてアンケートを実施し、個人用ロッカーを利用して貴重品を管理している生徒の割合 全校生徒の70%以上	②交通事故の年間件数 5件以内（目標は0件）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・服装・あいさつ・マナー等に関する指導は、教育活動全体の中で全教員が一丸となって行う。特に、登校指導や、生活委員・生徒会が協力して挨拶運動を行う中で、生徒一人ひとりが主体的に自覚と責任をもった行動ができるように指導する。 <p>①個人用ロッカー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や学年集会などの機会を捉えてロッカーに施錠するよう指導を行う。また、体育大会や球技大会などの行事の際、ロッカーで貴重品を管理するよう呼びかける。ロッカーの使用について意識調査を実施し、ロッカーの使い方に関する規範意識を持たせ、今後の指導に役立てる。 <p>②交通事故</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、交通安全教室やさわやか運動、登校指導、サイクル安全リーダーによる交通安全街頭指導、HR、生徒会を通して交通安全に関する意識の高揚を図る。 ・努力義務ではあるが、ヘルメットの着用を呼びかける。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン -4-			
重点項目	学校生活（保健指導）		
重点課題	感染症対策の継続と規則正しい生活リズムの定着		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 現在、学校現場でのマスクの着用が原則個人の判断に任せられ、新型コロナウイルス感染症対策は緩和されたが、生徒は感染への不安をいまだ持つており、教室でのマスク生活は続いている。教室の常時換気と手洗いを徹底させ、マスクがなくても安心して学校生活を送れるようにさせたい。 生徒が学習に集中して取り組むためには、学校としての感染症対策のほかに、各自の健康管理が重要で、スマホを中心とした日常生活になっている生徒は、適切な食習慣や睡眠時間の確保に努めるなど生活習慣を見直し、健康な生活を送れるようにさせたい。 		
達成目標	①教室の常時換気の実施率と毎日の清掃活動による環境改善への意識の高揚 80%以上		②食習慣や睡眠時間などの生活習慣を見直す 2回の調査で改善できたと回答する割合 60%以上
方 策	①について <ul style="list-style-type: none"> 清掃の実施状況を生徒にアンケート調査する。 毎朝のST時に廊下や教室の窓を開けたか、担任にアンケート調査する。 ②について <ul style="list-style-type: none"> 1学期と2学期に1回ずつ、毎日の食事や睡眠時間について1週間程度記録させて、1回目と2回目を比較して改善できたと思えるかを、生徒にアンケート調査する。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン -5-			
重点項目	進路支援		
重点課題	高い志を持ち進路目標の達成に取り組む生徒の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学に進学したいと考えている生徒の割合は1・2年次で9割以上、3年次で8割以上になるが、具体的な進路目標をもった生徒の割合が低い。 学部学科を2年次1学期までに決定できる生徒の割合が少ない。 高い進路目標を抱くことができても、学力がともなわず断念する生徒が多い。 		
達成目標	①年間を通じて生徒の進路目標の意識付けに繋がる面接回数を確保する。		②高校生のための学びの基礎診断による学習到達度 (GTZ) B1 以上を達成した生徒の割合
	5回以上		1月模試において総合 B1 以上の生徒の割合が1年生は6割以上、2年生は5割以上、3年生は 11月模試において総合 B1 以上の生徒の割合が5割以上
方 策	1 進路指導計画に基づく各学年の方針に従い、生徒との個人面接を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、具体的な進路目標を個々に設定させる。 2 学力検討会及び学年会を通して、教科と学年が連携して生徒の学習意欲を喚起し、学力の定着が図れるように努める。		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン -6-			
重点項目	特別活動（①HR活動、②学校行事）の充実、③生徒の主体的・積極的な参加		
重点課題	生徒による主体的な企画・立案・運営		
現 状	<p>①昨年度は学年統一テーマ討論会（3学年「デモクラシーについて」、1・2学年「校則について」）を企画・実施し、活発な議論が展開された。しかし、それ以外で「話し合い活動」が行われることは少なく、レクリエーション中心のHR活動となっている。</p> <p>②学校行事に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ここ数年間は縮小した形で実施してきた。それでも昨年度の文化祭は「南苑ウィーク」から「南苑祭」に移行し、各クラス・各文化部の発表だけでなく、生徒会執行部が企画した「スタンプラリー」や南苑祭実行委員会が企画した「南高生の主張」などでも盛り上がりを見せた。今年度は、「南苑祭」だけでなく「体育大会」でもコロナ前の状態に戻す方向で準備を進めていく予定である。</p> <p>③あらゆる特別活動で、生徒が主体的・積極的に取り組んでいるとは言いがたい。事前指導や計画に工夫を凝らす必要がある。</p>		
達成目標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">①HR活動及び学年活動において、 討論会などを各学期1回(年間3回)</td><td style="width: 50%;">②体育大会、南苑祭「満足度」80%以上 ③企画、準備段階での取り組み姿勢や当日の運営及び参加姿勢「積極的な参画」75%以上</td></tr> </table>	①HR活動及び学年活動において、 討論会などを各学期1回(年間3回)	②体育大会、南苑祭「満足度」80%以上 ③企画、準備段階での取り組み姿勢や当日の運営及び参加姿勢「積極的な参画」75%以上
①HR活動及び学年活動において、 討論会などを各学期1回(年間3回)	②体育大会、南苑祭「満足度」80%以上 ③企画、準備段階での取り組み姿勢や当日の運営及び参加姿勢「積極的な参画」75%以上		
方 策	<p>①ホームルーム運営委員への指導（テーマの決め方・議論の仕方など）をとおして、 自主的・積極的な話し合い活動の実施を促す。話し合い活動により、様々な背景や 自分とは考え方や価値観が異なる人とよりよい関係を築くことができるようとする。</p> <p>②「体育大会」・「南苑祭」のいずれも、「生徒会執行部が立案→生徒議会（→各クラス）で審議・決定」の流れで準備を進めていく。生徒自身が企画・立案・審議に参 加する機会を設けることで、生徒の行事に対する意識向上を図る。【実施後にアン ケート調査】</p> <p>③より多くの生徒が様々な場面で積極的に参画できるよう、作業分担に工夫を凝ら す。【実施後にアンケート調査】</p>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 富山南高等学校アクションプラン -7-			
重点項目	特別活動（図書指導の充実）		
重点課題	読書習慣の定着と図書館及び図書資料の活用促進		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量の多い生徒もいる反面、読書習慣のない生徒がいる。昨年度1人あたりの貸出冊数は2.7冊であった。（R3年度 3.5冊、R2年度 2.3冊） ・図書館への来館人数は1日平均37人であった。 ・本を主体的に読み、考え、表現する力が、十分についているとはいえない。 ・小論文や調べ学習の機会が増え、生徒自身が情報を選択しまとめることが必要にな っている。しかし、生徒の図書検索力は十分とは言えない。 ・昨年度レファレンス（図書資料や情報を求めている生徒たちに支援する活動）を利用した生徒数は60人だった。 		
達成目標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">① 1人あたりの貸出冊数 1年間に3冊以上</td><td style="width: 50%;">② レファレンスを利用した生徒数 1年間に70人以上</td></tr> </table>	① 1人あたりの貸出冊数 1年間に3冊以上	② レファレンスを利用した生徒数 1年間に70人以上
① 1人あたりの貸出冊数 1年間に3冊以上	② レファレンスを利用した生徒数 1年間に70人以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用を支援する。 ・生徒図書委員による企画を支援し、読書の楽しさを体験できる場を設定する。 ・ICTを活用した電子図書館や蔵書検索など利用の定着を促進する。 ・「としょだより」（生徒図書委員発行）と「Library」（図書部発行）を配布し、新刊 図書案内や生徒の読後感等を掲載することによって、生徒の読書欲を喚起する。 ・県立図書館と連携し、領域や系統を決めて一つのテーマや内容に沿った関連図書を 紹介するコーナーを設ける。 ・継続して作成しているパスファインダーをレファレンスを反映させ更新し、生徒の 図書館検索力を支援する。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)